

## 抄 録

### カイヤドリウミグモが宿主の二枚貝に及ぼす影響： 宿主の潜砂状態と寄生率、肥満度、生残の関係

富山 毅\*・山田勝雅\*\*・涌井邦浩\*\*\*・玉置雅紀\*\*\*\*・宮崎勝巳\*\*\*\*\*

Impact of sea spider parasitism on host clams: relationships between burial patterns  
and parasite loads, somatic condition and survival of host

Takeshi TOMIYAMA, Katsumasa YAMADA, Kunihiro WAKUI, ,  
Masanori TAMAOKI and Katsumi MIYAZAKI

Hydrobiologia 770, 15-26 (2016)

カイヤドリウミグモ（以下ウミグモ）は 2007 年に東京湾において大量発生し、アサリの大量斃死がみられた。斃死貝あるいは瀕死の二枚貝が、本来生息しているはずの砂中ではなく底土表面で観察されたが、その機構については不明である。そこで、室内実験で人為的にウミグモを寄生させてアサリを飼育したところ、寄生がない場合に比べて潜砂しないアサリが有意に増加したことから、寄生によって潜砂状態に変化が生ずることが示唆された。松川浦で採集した 3 つの潜砂状態のアサリ（完全潜砂、殻の一部が表面に出ている部分潜砂、非潜砂）について、ウミグモの寄生率、アサリの肥満度、再潜砂の有無を調べた。非潜砂群および部分潜砂群では、完全潜砂群に比べて軟体部重量が 30% 低く、閉滑力が 60% 弱かった。ウミグモの寄生率および寄生数は非潜砂群と部分潜砂群において完全潜砂群よりも有意に高く、再潜砂深度は完全潜砂群より浅かった。さらに、非潜砂群および部分潜砂群のアサリでは、約 30% が 30 日以内に斃死したが、完全潜砂群では斃死はみられなかった。以上の結果から、ウミグモが寄生することによってアサリの潜砂深度や肥満度が低下し、最終的に非潜砂の状態となって砂の上での斃死につながることを示唆された。

---

\* 広島大学生物圏科学研究科

\*\* 熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センター

\*\*\* 福島県水産課

\*\*\*\* 国立環境研究所

\*\*\*\*\* 新潟大学理学部